

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01180

研究課題名（和文）近代英国哲学におけるキリスト教神学の影響

研究課題名（英文）Influence of Theology on the Modern British Philosophy

研究代表者

矢嶋 直規 (Yajima, Naoki)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：10298309

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では近代英国哲学とキリスト教神学の関係の解明を目指し共同研究を行った。その成果は矢嶋直規編著『近代英国哲学とキリスト教神学』（晃洋書房、2024年）にまとめられている。ロック、パークリ、ヒューム、スミス、リード、J・S・ミル、カントと続く近代英国哲学とキリスト教神学との密接な関係を個々の体系に即して解明した。近代英国哲学史を理解する視点としてキリスト教神学との関係に注目することの重要性が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来本邦において近代英国哲学は経験主義的立場、および社会科学的志向のために神学とは無関係の世俗的な理論と見なされがちであった。しかし本研究によってその成立にはキリスト教神学が重要な位置を占めていることが示された。今後の英国哲学研究においてキリスト教神学の関連の考察が求められることになる。また近代哲学の背景としての宗教の意義を再考することの重要性が示され、哲学と宗教とを一体的に研究する方向性を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted a four-year collaborative research project aimed at elucidating the relationship between modern British philosophy and Christian theology. The results of this research are compiled in "Modern British Philosophy and Christian Theology," edited by Naoki Yajima (Koyoshobo, 2024). This book reveals that modern British philosophy, as exemplified by figures such as Locke, Berkeley, Hume, Smith, Reid, and J. S. Mill, developed invariably against the backdrop of a close relationship with Christian theology. The influence of Christian theology on each philosopher is not limited to the realm of the philosophy of religion but is related to the entire purpose of their philosophical systems. We have demonstrated that the central concepts within the systems of each philosopher are formulated to explain Christian faith.

研究分野：近代英国哲学

キーワード：近代英国哲学 キリスト教神学 英国経験論 ジョン・ロック ジョージ・パークリ デーヴィッド・ヒューム アダム・スミス トマス・リード

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本邦では近代英国哲学研究の蓄積は長年にわたり大きなものがある。しかし英国哲学研究を全体としてキリスト教神学との関連で考察する研究が主題的に行われたことはなかった。その理由は本邦にキリスト教信仰の歴史的背景がないまま、西洋思想が導入されたこと、また近代英国哲学が一般に世俗的な理論であると見なされていることである。しかしそうした想定が必ずしも正確ではないとすれば、近代英国史全体をキリスト教との関連によって再考することには重要な意味があると考えられた。

(2) 本研究課題の研究者は全員が近代英国哲学研究の専門家であり、それぞれの領域で学会で重要と認められる業績を有している。研究代表者はヒューム研究の専門家であり、これまでヒュームの認識論の道徳哲学的意義、および宗教哲学的意義についての研究を進めてきた。サムエル・クラークやジョゼフ・バトラーなどヒュームと同時代の自然神学者の研究を進めることで、英国哲学の成立と展開に果たした自然神学の重要性に着目したことが本研究の背景をなしている。また研究代表者は英国エディンバラ大学、及び米国プリンストン神学大学院での研究によって、近代英国における宗教哲学及びキリスト教神学の専門家と研究交流を進め本研究課題の研究協力を得る準備が整った。

2. 研究の目的

(1) 英国哲学とキリスト教神学との関係に焦点をあて、ロック、バークリ、ヒューム、スミス、リード、J・S・ミル、カントとキリスト教神学との関係を解明すること。その際、それぞれのキリスト教理論を宗教哲学に限定された問題として扱うことを避け、とりわけそれぞれの形而上学、認識論、および道徳哲学の成立と基本的構成におけるキリスト教神学との関係を解明する。それによって従来の近代哲学史像の刷新を目指す。

(2) 本研究課題を通して本邦における近代英国哲学研究、国際交流の促進をはかる。また従来別々の研究領域としてすみ分けられてきた神学・キリスト教と哲学研究の相互理解の深化を目指す。

3. 研究の方法

(1) 7名の研究者がそれぞれの担当の哲学者のテキストをキリスト教神学との関係という観点から精査する。キリスト教神学の重要な教義、および宗教哲学的観点から重要な概念の特徴に焦点を当て、それぞれの哲学者の哲学体系を考察する。研究者各自の研究課題と本研究課題を結びつけ個別研究を進める。18世紀の重要な神学者の著作や論考の翻訳を行う。

(2) 年に3-4回のオンライン会議を開催し第一段階としてそれぞれの草稿を発表し問題点を指摘し改善案を検討する。

(3) 「スコットランド哲学会」(ISSP)の国際大会、および国内学会の研究大会において研究発表を行う。

(4) 英国ケンブリッジ大学神学部欽定教授デーヴィッド・ファーガソン博士、米国プリンストン神学大学名誉教授ゴードン・グレアム博士、米国スーフォールズ大学ジェームズ・フォスター博士による知識提供の講演会をオンラインで開催する。

4. 研究成果

(1) 研究分担者下川潔は、ロックの『人間知性論』を検討し、ロック哲学がキリスト教を正当化する狙いを持つことを蓋然性および信仰の概念に即して解明した。それに関連し、『キリスト教の合理性』を『キリスト教の穏当さ』と訳すべき論拠を提示した。

(2) 研究分担者竹中真也は、バークリの『アルシフロン』の検討を通し、そこでのバークリの狙いが三位一体論を正当化することであると論じた。竹中によればバークリはその記号論によって信仰と理性の一致を主張しようとしたのである。バークリは古代哲学とキリスト教神学の連続性を示すことであったことが明らかにされた。

(3) 研究代表者矢嶋直規は、ヒュームの『人間本性論』の検討を通して、ヒュームの形而上学と認識論のすべての主要な議論がすべて自然神学の中心的課題であることを指摘し、ヒュームの狙いが『人間本性論』の「序論」で宣言されている通り自然神学の変革であることを明らかにした。その際、ヒュームの「知識論」の中心部分をなす「外的物体論」と「魂論」が従来考えられてきたように無神論を擁護するための理論ではなく、神の存在論証に関して中立的な主張で

あることを主張した。このことはヒューム哲学がキリスト教信仰を理性的論証の事柄から、道徳性に基づくコンヴェンションの産物であることを明らかにした。

(4) 研究分担者古家弘幸はスミスの『道徳感情論』の検討を通して、スミスがキリスト教信仰を否定せずそれを前提にしてストア主義を乗り越えようとしていることを論じた。また『国富論』の議論を踏まえ、従来スミスがストア主義者、あるいは理神論者として扱われてきたことを批判し、スコットランド啓蒙の倫理的エートスとしてキリスト教を位置付けた。

(5) 研究分担者長尾伸一はスコットランド啓蒙哲学全体を視野に収めつつ思想史的観点からリード哲学とキリスト教の関係を解明した。長尾はニュートン主義が自然神学の正当化の理論的根拠として理解されていたことを指摘した。ニュートン体系が自然を合理的に説明していることへの信頼によって、なお残される不完全な領域を、科学が原理的に扱い得ない神の領域とする見方が確立した。こうしてスコットランド哲学において信仰は科学によって理論的保証を与えられ、信仰と科学は互いに補い合う関係にあったことが明らかにされた。

(6) 研究分担者柘植尚則は J・S・ミルとキリスト教の関係を考察した。ミルは父であるジェームズ・ミルの無宗教教育によってキリスト教信仰に触れずに育ったが、生涯宗教についての考察を続けた。柘植はミルの「良心」概念と「人間」概念に焦点を絞りキリスト教倫理との関連を論じた。ミルは『宗教論』において神を全能ではなく有限な存在として捉え、人間を神に服従する存在ではなく、神の補助者と位置付けている。この思想はミルが伝統的なキリスト教を批判しそれに代わり「人類教」をとらえ、さらに「希望の神学」によってキリスト教を継承しようとした。この点にミルにおけるキリスト教の影響を認めることができる。

(7) 研究分担者ジェレマイア・オルバーグはルネ・ジラルドが代表する現代神学の一派であるスケープゴート理論に照らしてヒュームとカントの理論とキリスト教の関連を解明した。ヒュームにおいて共同体を形成する原理は「共感」である。またカントは『世界市民的見地における普遍史の理念』においてヒュームと似た結論に達している。しかしオルバーグによればヒュームもカントもキリスト教の合理性への要求によっては聖書の啓示が犠牲のメカニズムの暴力を克服することを理解できないと批判する。この結論は、ヒューム研究の立場からは、ヒュームがキリスト教への批判にカントと同様の仕方でもコミットしていたことを示すものであり、ヒュームの哲学が神学的な意義を持つことをも意味している。

(8) 研究代表者矢嶋直規は上記(1)から(7)までの論考に序論と導入を付けて編集し、『近代英国哲学とキリスト教神学』(晃洋書房、2024年)として出版した。同書は本研究課題の包括的な研究成果となった。

(9) 本研究課題を遂行する上で、ケンブリッジ大学神学部欽定教授デーヴィッド・ファーガソン博士、プリンストン神学大学院名誉教授ゴードン・グレーム博士、スーフォールス大学のジェームズ・フォスター博士の講演会を開催した。

(10) 2022年3月には国際基督教大学において「スコットランド哲学研究会」の世界大会を開催した。同学会はエディンバラ大学出版会から学術誌「Journal of Scottish Philosophy」を刊行している。研究代表者矢嶋直規は同誌21(1)号のゲスト・エディターとして同号を編集出版した。

(11) 研究代表者と研究分担者はそれぞれの研究過程で、関連する業績を多く刊行し、近代英国哲学とキリスト教神学の関連について多様な論点を明らかにした。

(12) 研究代表者矢嶋直規は T・H・グリーン『倫理学序説』を他3名の共訳者ととも約120年ぶりとなる全文訳を刊行した。

(13) 研究代表者矢嶋直規はヒュームの自然神学批判に最大の影響を与えた神学者ジョゼフ・バトラーの思想形成をサムエル・クラークとの往復書簡を手掛かりにして解明した。その成果を他2名の共同編集者とともに Joseph・Butler: A preacher for Eighteenth-Century Commercial Society(Springer, 2024)として公刊した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 古家弘幸	4. 巻 46
2. 論文標題 ICU-ISSP Conference, International Christian University, Tokyo, March 26, 2022	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柘植尚則	4. 巻 3477
2. 論文標題 〔書評〕「モーリス・克蘭ストン『ジョン・ロック伝』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古家 弘幸	4. 巻 2022年5月16日号
2. 論文標題 書評 ジェシー・ノーマン『アダム・スミス 共感の経済学』村井章子・訳（早川書房、2022年）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『公明新聞』	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋直規	4. 巻 45
2. 論文標題 書評：『自然神学をめぐる対話』（ヒューム著、犬塚元訳）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 227-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋直規	4. 巻 45
2. 論文標題 書評：澤田和範『ヒュームの自然主義と懐疑主義 統合的解釈の試み』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋直規	4. 巻 98
2. 論文標題 書評：中村隆文著『世界史がわかる比較思想史入門』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下川潔	4. 巻 21
2. 論文標題 客員研究員の招聘から本の出版に至るまで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学習院大学人文科学研究所報	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柘植尚則	4. 巻 45
2. 論文標題 客観主義、合理主義、直観主義：もう一つの近代イギリス倫理思想史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋直規	4. 巻 41
2. 論文標題 翻訳と解題ジョゼフ・パトラー『人格同一性論』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢嶋直規	4. 巻 44
2. 論文標題 ECSSS-ISSP Online Conference on Religion and Enlightenment in Eighteenth-Century Scotland	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 101-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古家弘幸	4. 巻 44
2. 論文標題 「書評 バーナード・マンデヴィル『新訳 蜂の寓話 私悪は公益なり』鈴木信雄・訳(日本経済評論社、	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『イギリス哲学研究』(日本イギリス哲学会)	6. 最初と最後の頁 59, 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古家弘幸	4. 巻 15
2. 論文標題 ウィリアム・ロバートソンの現実主義神学 『説教』(1755年)を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ピューリタニズム研究』(日本ピューリタニズム学会、2021年3月)	6. 最初と最後の頁 25, 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoki Yajima	4. 巻 21.1
2. 論文標題 Editorial	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Scottish Philosophy	6. 最初と最後の頁 V
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3366/jsp.2023.0347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Naoki Yajima
2. 発表標題 Comments on Dr. Foster's Reid and Utopia
3. 学会等名 Symposium: Religion in the Scottish Enlightenment (ICU, ICC)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 バークリの倫理学
3. 学会等名 日本イギリス理想主義学会 研究大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 古家 弘幸
2. 発表標題 アダム・スミスと一八世紀英国の通商政策 メシュエン条約と英仏通商条約を中心に
3. 学会等名 西洋史研究会、東北大学、Zoom Meeting
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoki Yajima
2. 発表標題 Response to Richard Velkley's Rousseau's Critique of the Enlightenment and Kant's Response
3. 学会等名 ICU ICC Symposium Rousseau and Kant: Philosophical, Political, and Aesthetic Relations (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古家弘幸
2. 発表標題 英国女王エリザベス二世とスコットランド
3. 学会等名 総合政策学研究会第3回研究例会、徳島文理大学大学院総合政策学研究科
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroyuki Furuya
2. 発表標題 National Defence and Commercial Civilisation in Adam Smith
3. 学会等名 The 52nd Annual Conference of the UK History of Economic Thought Society (THETS), Session 2, Fitzwilliam College, University of Cambridge, Cambridge, UK (31 August 8211;2 September, 2022). (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古家弘幸
2. 発表標題 アダム・スミスとキリスト教神学 同情と義務感を中心に
3. 学会等名 近代英国哲学とキリスト教神学研究会、国際基督教大学、Zoom Meeting
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢嶋直規
2. 発表標題 ヒューム『人間本性論』とキリスト教神学：「外的物体論」と「魂論」を中心に
3. 学会等名 近代英国哲学とキリスト教神学研究会、国際基督教大学、Zoom Meeting
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下川潔
2. 発表標題 ロックにおける信仰と理性
3. 学会等名 近代英国哲学とキリスト教神学研究会、国際基督教大学、Zoom Meeting
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下川潔
2. 発表標題 寛容の義務から、良心の自由の平等な保障へ ロックから、アメリカへ
3. 学会等名 第16回ジョン・ロック研究会 学習院大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下川潔
2. 発表標題 寛容の義務から、良心の自由の平等な保障へ
3. 学会等名 社会思想史学会シンポジウム「多文化共生の条件」第2報告 専修大学（生田キャンパス）、2022年10月15日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jeremiah Alberg
2. 発表標題 Responce to Christopher Kelly on Rousseau's Dialogues
3. 学会等名 ICU ICC Symposium Rousseau and Kant: Philosophical, Political, and Aethetic Relations (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoki Yajima
2. 発表標題 Personal Identity, Religion, and Morality in Butler and Hume
3. 学会等名 Institute for the Study of Scottish Philosophy, University of Antwerpen (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下川潔
2. 発表標題 トマス・ペインと新しい自然権概念 ロック自然権概念のラディカルな変容
3. 学会等名 イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長尾伸一
2. 発表標題 歴史的文脈の中のニュートン主義
3. 学会等名 シンポジウム『新たなニュートン像』を超えて、日本科学史学会 第68回年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Nagao
2. 発表標題 Science, metaphysics and the hand of God; the case of Thomas Reid
3. 学会等名 Institute for the Study of Scottish Philosophy (ISSP), "Political Economy in the Scottish Enlightenment", International Christian University (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroyuki Furuya
2. 発表標題 The Political Economy of National Defence in Adam Smith
3. 学会等名 Institute for the Study of Scottish Philosophy (ISSP), "Political Economy in the Scottish Enlightenment", International Christian University
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jeremiah Alberg
2. 発表標題 Recentring Hume and Kant: Philosophy and Christianity
3. 学会等名 Institute for the Study of Scottish Philosophy (ISSP), "Political Economy in the Scottish Enlightenment", International Christian University
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoki Yajima
2. 発表標題 Probability and Conceivability in David Hume and Bishop Butler
3. 学会等名 ECSSS-ISSP Online conference on Religion and Eighteenth-Century Scotland (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢嶋直規
2. 発表標題 シンポジウム：近代とキリスト教 チャールズ・テイラー『世俗の時代』趣旨説明
3. 学会等名 国際基督教大学キリスト教と文化研究所公開講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢嶋直規
2. 発表標題 ヒュームとバトラーにおける魂論と人格同一性論
3. 学会等名 近代英国哲学とキリスト教神学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柘植尚則
2. 発表標題 客観主義、合理主義、直観主義：もう一つの近代イギリス倫理思想史
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第45回研究大会（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 矢嶋直規 日本18世紀学会編集委員会（長尾伸一他）編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 4
3. 書名 啓蒙思想の百科事典、「懷疑主義」	

1. 著者名 矢嶋直規	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創文	5. 総ページ数 576
3. 書名 共訳 トマス・ヒル・グリーン著 倫理学序説	

1. 著者名 長尾伸一 日本18世紀学会編集委員会（長尾伸一他）編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 692
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

1. 著者名 下川潔 日本18世紀学会編集委員会（長尾伸一他）編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 4
3. 書名 啓蒙思想の百科事典、「ロック主義」、「私的所有」	

1. 著者名 Kiyoshi Shimokawa and Peter R. Anstey	4. 発行年 2021年
2. 出版社 London: Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 256
3. 書名 Locke on Knowledge, Politics and Religion: New Interpretations from Japan	

1. 著者名 長尾伸一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 344
3. 書名 フィクションの哲学:詩学的虚構論と複数世界論のキアスム	

1. 著者名 柘植尚則	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 106
3. 書名 人間は利己的か:イギリス・モラリストの論争を読む	

1. 著者名 古家弘幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 デザインエッグ社	5. 総ページ数 234
3. 書名 「歴史学から見た感染症 大ペストが変えた世界、新型コロナウイルスが変える世界」、『コロナと総合政策学 学部創設20周年記念出版』	

1. 著者名 柘植 尚則	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 444
3. 書名 近代イギリス倫理思想史	

1. 著者名 バーナド・ウィリアムズ、森際 康友、下川 潔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 480
3. 書名 生き方について哲学は何が言えるか	

1. 著者名 大野誠編著、長尾伸一他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 295
3. 書名 近代イギリス科学の社会史	

1. 著者名 Kiyoshi Shimokawa and Peter R. Anstey (eds),	4. 発行年 2021年
2. 出版社 London: Bloomsbury	5. 総ページ数 256
3. 書名 Locke on Knowledge, Politics and Religion	

1. 著者名 矢嶋直規編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 近代英国哲学とキリスト教神学	

1. 著者名 Daisuke Arie, Masatake Okubo and Naoki Yajima (eds.)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 189
3. 書名 Joseph Butler: A Preacher for Eighteenth-Century Commercial Society	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柘植 尚則 (Tsuge Hisanori) (00305898)	慶應義塾大学・文学研究科(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	長尾 伸一 (Nagao Shinichi) (30207980)	名古屋大学・経済学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	古家 弘幸 (Furuya Hiroyuki) (30412406)	徳島文理大学・総合政策学部・准教授 (36102)	
研究分担者	下川 潔 (Shimokawa Kiyoshi) (40192116)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	2020年度-2022年度
研究分担者	ALBERG Jeremiah (Alberg Jeremiah) (80552182)	国際基督教大学・教養学部・特任教授 (32615)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹中 真也 (Takenaka Shinya) (50816907)	中央大学・理工学部・准教授 (32641)	2023年度

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計8件

国際研究集会 Religion in the Scottish Enlightenment	開催年 2022年～2023年
国際研究集会 Modern British Philosophy and Christial Theology 1 by Professor David Fergusson	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Modern British Philosophy and Christial Theology 2 by Professor Gordon Graham	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Symposium: Religion in the Scottish Enlightenment	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 ICU-ISSP Conference, International Christian University, Tokyo, March 26, 2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Institute for the Study of Scottish Philosophy (ISSP), "Political Economy in the Scottish Enlightenment", International Christian University	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Philosophy and Theology in Scottish Philosophy	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Philosophy and Theology in Britain	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関